

飛躍する台湾産業



台湾の通信産業(2)

世界的なブロードバンドネットワークと無線LAN(WLAN)市場が持続的な成長を続けるなかで、台湾の情報通信産業は品質・製造コスト面での高い競争力を誇り、台湾企業はインターネット関連製品の国際市場において、非常に優勢な地位を占めている。台湾の通信機器産業は、家庭用端末設備(電話機、FAXやアナログモデムなど)から始まり、LAN製品(インターネットカード、集線器、交換器、SOHOルーター等)、ブロードバンド機器(xDSL、モデム、IP DSLAM等)へと発展をとげている。旧来の有線通信設備製造業も、積極的に関連商品を開拓し、インターネット関連の多様な製品を扱うようになってきている。台湾の通信設備各社は、WLAN、DSLやCable等のブロードバンド市場に積極的な展開をし、一方、ブロードバンド通信業者もWLAN市場への参入を重要な戦略の一つと捕らえている。今回は、台湾のインターネット関連企業のうち、合勤科技(ZyXEL)、建漢科技(Cyber TAN)、友訊科技(D-Link)の3社を紹介する。

合勤科技



各種技術・商品を統合し  
多様なソリューションを提供

合勤科技は1989年設立、当初は自社ブランド商品「ZyXEL」の販売を行っていたが、インターネット通信産業の急速な変化への適応を繰り返し、主力の商品も初期のモデムから、ISDN用ターミナルアダプター、ルーター、現在のブロードバンド接続設備へと変化、世界の小型ルーター市場で商品構成のもっとも整ったメーカーの一つとなっている。ここ数年、ヨーロッパのルーター市場での同社シェアは、シスコ(CISCO)に次いで安定的に2位を確保、世界市場でのシェアも常に3位以内に入っている。中でもDSLルーターは世界1位となっている。

合勤科技の現在の製品は、売上の80%を占めるOBM(自社ブランド)商品を主力とし、残る20%は電信会社向けODM商品の売上となっている。販売先は、ヨーロッパ市場が最大で約55%、次いでアジア30%、米国市場約15%となっている。主要な製品内訳は順に、xDSLブロードバンド製品50%、

ブロードバンド交換器30%、無線ブロードバンド8%、ファイアーウォール7%、ISDNルーター5%等。合勤科技は有線通信ソリューションの他、無線通信分野にも進出しており、電信業者、ISP業者、各国政府・銀行や各種企業、SOHO等が顧客となっている。

合勤科技の企業文化の核心は「クリエイティブ・マインド」で、インターネット接続関連設備メーカーでありながら、研究開発投資にも大きな考慮を払っている。開発技術者は全技術者の31%に達し、毎年売上高の5%が研究開発費に投入されている。合勤科技は、これまでに開発してきた様々な商品構成、ソフトの開発及び累積技術を活用し、今後、広域ネットワークと域内ネットワーク製品を統合し、より多様で効率的なソリューションを提供することを考えている。今後の開発においては、ネットワーク(IP Routing)、無線LAN及びLAN、ブロードバンド接続、ネットワークセキュリティ(IP Tool)等の統合を大きな方向性に定めている。

建漢科技



デジタルホーム(Home Networking)を  
全発展の主軸に

無線LAN(WLAN)とルータ(Router)一体化の趨勢から、1998年の設立で台湾最大のSOHO

Routerメーカーである建漢科技は、2002年に無線設備大手メーカーの宇太網訊を合併し、台湾の3大インターネット設備メーカーの1社となっている。同社の拠点には500名を越す台湾人スタッフを抱え、



うち、研究開発に従事する高級技術者だけで200名に達する。

現在、台湾新竹の本社の他、湖口（新竹県）工場を持つほか、中国大陸にも、同社の85%の生産能力を誇る東莞工場、広州の研究開発チームを有する。また大陸市場の発展に備え、近く北京オフィスを開設し、来年には上海に研究開発と生産の機能を併せ持つオペレーションセンターを設立する。建漢科技は、無線/無線ブロードバンド/ADSL無線/VPN/Firewallルータ、無線CPE、無線AP、イーサネットカード等のLANとWANの一体化に関連した一連の商品を主要な販売品目としている。同社の世界市場シェアはSOHO Routerで38%、SOHO WLANで26%に上る。同社の中心顧客は

海外OEM/ODM委託先メーカーであるため、主な製品販売地域も国外となり、内80%近くが北米向けである。ODM先のブランドによってではあるが、北米のSOHOブロードバンドRouter市場の50%を占め、市場占有率は第1位。日本を主とするアジア市場では12%、欧州では9%の市場占有率を誇る。

同社は、デジタルホーム（Home Networking）を今後の発展の軸とし、家庭のインターネット経路（Home PC Networks）と、家庭用娯楽機器（TV, DVD player等CE商品）、家庭用コントロール機器（Energy, AC, Security）等を連携させ、Wireless communicationsによるデジタルホームの実現を目標としている。

## 友訊科技 **D-Link**

設計と製造業務を分離して、  
ブランド強化に注力

同社は1987年に設立、当時から自社ブランド「D-Link」で世界のインターネット関連商品市場に参入。台湾のインターネット設備関連企業の中で最も早期に上場を果たした。現在「D-Link」ブランドは、世界42カ国で販売され、世界中に87のオフィスを構える。米国を除くと世界最大のインターネットブランド。

友訊科技はグローバル市場を4つの区域に分けている。北米市場が最も多く39%、アジア地区がそれに次ぎ22%、大中華地区が17%をしめる。取り扱い製品構成は関連分野の大勢をカバーし、最主力商品である無線LAN製品が約34%、次いでブロードバンド製品、交換器が各24%、23%、その他は家庭用インターネット設備、ファイアウォール等のセキュリティ関連商品となっている。D-Linkの無線LAN製品は世界第2位にランクされ、ハイスピード交換器は世界第1位。

2003年の友訊科技の自社ブランド製品及び委託加工（OEM等）の売上比率は、それぞれ72%と28%。2004年1月1日より自社ブランドから委託加工部門を分社し、研究開発及び製造・サービスを行う明泰（Alpha）社を設立した。同社は、極力、友訊科技社の色彩を薄め、一層の委託加工契約獲得を目指す。分社後の友訊科技社は、自社ブランド経営に専念し、今後、より弾力的な部品調達を行う計画。

同社は十数年前に既に日本市場の開拓に着手し、現在はOEMを主としている。分社後は、D-Linkのブランド名で日本の消費マーケットへ算入することを望んでいる。まずデジタル家電（デジタルカメラやビデオ等）・無線LAN・無線ブロードバンド・家庭用ルーター（SOHO Router）等の商品で日本市場を開拓する。現在、日本国内での代理店を探しており、パートナーと共に日本市場で自社ブランドの確立を目論んでいる。